

# プログラム

※終演後、ホームページでも掲載致します。

## 1. ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第6番 イ長調 Op.30-1

作曲年：1801年～1802年頃

全3楽章（第1楽章：Allegro 第2楽章：Adagio molto espressivo 第3楽章：Allegretto con Variazioni）

ベートーヴェンが31歳頃にかいた初期から中期にかけての作品。ロシア皇帝のアレキサンダー1世へ献呈。

20代後半頃より患った難聴により、自殺も考えて『ハイリゲンシュタットの遺書』をしたためたとされる少し前頃に作曲。

演奏会ではあまり披露される機会の少ない曲だが、作品全体は明るく、穏やかで落ち着いた雰囲気の大曲。

## 2. ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第8番 ト長調 Op.30-3

作曲年：1801年～1802年頃

全3楽章（第1楽章：Allegro assai 第2楽章：Tempo di Minuetto, ma molto moderato e grazioso 第3楽章：Allegro vivace）

立体的に感じる音と疾走感で次々と展開される明るい音色の作品。1作前の第7番とは対照的に華やかな雰囲気を持っていて、規模は小さくシンプルに仕上がっているものの、そのシンプルさは澄み切った美しさを感じられる。

第6番～第8番は、ロシア皇帝のアレキサンダー1世へ献呈されたことから『アレキサンダー・ソナタ』と呼ばれている。

モーツァルト時代の“ヴァイオリン助奏付きのピアノ・ソナタ”であったヴァイオリン・ソナタの影響を抜け出し、ヴァイオリンがメインの音楽を目指した“ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ”は、室内楽曲として進化したOp.30の3曲を締めくくるのにふさわしい作品。

## —— 休憩 20分 ——

## 3. ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第7番 ハ短調 Op.30-2

作曲年：1801年～1802年頃

全4楽章（第1楽章：Allegro con brio 第2楽章：Adagio cantabile 第3楽章：Scherzo, Allegro 第4楽章：Finale, Allegro-Presto）

ベートーヴェンが作曲したヴァイオリン・ソナタの中でも人気の高い作品の一つであるこの曲は、『アレキサンダー・ソナタ』で唯一、短調で書かれたもの。

この曲がかかれた頃、ベートーヴェンは、音が聞こえなくなることに精神的に追い詰められていたものの、多くの傑作を生むこととなる中期への転換に差し掛かる時期であった。

今日、傑作と呼ばれている交響曲第5番『運命』やピアノ・ソナタ第32番などの曲たち同様にハ短調でかかれており、印象的で劇的な堂々たる作品。

### アンコール曲

ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第7番 ハ短調 Op.30-2

第3楽章

2022年1月22日（土）

神奈川県立相模湖交流センター ラックスマン ホール

鈴木理恵子 & 若林顕 第2回ヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会



相模湖交流センター